

TAITO CITY

台東区の

あらまし

～令和 7（2025）年～



世界に輝く ひとまち たいとう



台東区



台東区には、現在でも、名所や旧跡の数々を擁し、まちや日々の暮らしの中に、江戸の粋と人情、歴史と文化が息づいています。また、古くから商工業の中心地の一つとして栄え発展してきた本区において、今なお集積する多種多様な産業は、まちの個性と魅力となっています。

この「台東区のあらまし」は、区の地域の魅力や成り立ちなどその姿を記したものです。

本区について、ご理解いただく一助になれば幸いです。

◆◆◆目次◆◆◆

・台東区のプロフィール	1
・地勢	5
・交通網	7
・人口	9
・産業	10
・区のあゆみ	13
・区政運営	15
・見どころ	19
・観光イベント	23
・台東区名誉区民	27
・台東区の姉妹都市・友好都市・連携都市	29

台東区のプロフィール

区名の由来

区の名称は、ダイと濁らずに「タイトウ」と発音します。

「台」は上野の高台を、「東」は上野台の東に位置する浅草を表しています。このように区の姿を象徴するとともに、「台」は、台覧や台臨という言葉があり、めでたさや気品の高さを表す文字です。「東」は、日出ずる所であり、若さ、力強さを感じさせます。

これらの字義、解釈にもとづき「めでたい」「気品」「若さ」といったことを「台東」の名は象徴しています。

区のマーク



区の紋章は昭和 26 年 4 月 18 日に制定されました。「台」と「東」を重ね合わせ図案化したもので、中央の白色は「台」、まわりの暗紅色は「東」を表しています。

区の木と花

区の木「さくら」・区の花「あさがお」は、昭和 52 年 10 月 28 日、台東区発足 30 周年を記念して制定されました。



～さくら：バラ科 落葉喬木～

「花の雲 鐘は上野か 浅草か」と江戸の俳人松尾芭蕉が詠んだように、昔から上野、谷中、隅田公園の桜などが有名です。特に約 1,200 本の桜を誇る上野公園をはじめ、隅田公園や谷中霊園では、春を迎えると多くの花見客でにぎわいます。



～あさがお：ヒルガオ科 つる性一年草～

毎年 7 月 6・7・8 日に開かれる入谷鬼子母神の朝顔まつりは、下町情緒豊かな夏の風物詩として有名です。また、タネまきから開花までの生長過程がわかりやすく、育てやすい「あさがお」は、学校でも理科教材用によく使われています。

たいとう音頭

作詞 保岡直樹 作曲 新井利昌
歌手 川野夏美

- 一、桜は上野か 浅草か
春の絵筆に 心も染まる
江戸の情緒が 息づいて
豊かな歴史に 薫るまち
タンタン タントキテ 台東区
みんな輪になれ 踊ろうよ
- 二、風もさわやか 五月晴れ
躍る神輿に 命もはずむ
四季を彩る ゆめ祭り
笑顔と元気を くれるまち
タンタン タントキテ 台東区
あつい人情 うれしいね
- 三、水は燦めく 鳥は舞う
こころ育む 文化の森よ
磨く伝統 光る技
世界の瞳が 集うまち
タンタン タントキテ 台東区
むすぶ絆は 宝もの

- 四、ごらん艶やか お月さま
スカイツリーも 仲良く踊る
響く太鼓の 意気のよさ
力を合わせて 伸びるまち
タンタン タントキテ 台東区
そろそろ手拍子 晴れ姿

- 五、ドンと夜空に 咲かそうよ
燃える希望の しあわせ花火
虹を奏でる 隅田川
新たな時代を 創るまち
タンタン タントキテ 台東区
あすへ飛翔く たいとう音頭

(平成24年3月 作成)



台東区民憲章 あしたへ

江戸の昔、「花の雲 鐘は上野か 浅草か」と詠まれたわたくし
たちのまち台東区には、磨き抜かれた匠の技や気さくで人情あふ
れる暮らしが、今もあちらこちらに息づいています。

わたくしたちは、先人が築いてきた文化や環境を大切に
守り、伸びゆく住みよいまちを目指し、この憲章を定めます。

たからものを うけつぎ こころゆたかな まちにします
おもてなしの えがおで にぎやかな まちにします
おもいやり ささえあい あたたかな まちにします
みどりを いたくしみ さわやかな まちにします
いきがいを はぐくんで すこやかな まちにします

(平成十八年十二月十四日告示第六百八十八号)

※ 区民憲章とは、区民生活の目標や願いであり、区民の皆様が主人公になって、それを実践していくものです。

この台東区民憲章には、幼い子どもからお年寄りまで、みんなで台東区をよりよいまちにしていこうという思いが込められています。

健康都市宣言

健康は、私たちがいきいきとした豊かな生活を営む源であり、万人の願いである。

健康を保持増進するためには、心身の健康づくりに対する一人ひとりの自覚と健康的な生活習慣の実践、個人と家族と地域が共に支えあう社会、安全で快適な生活環境の整備が不可欠である。

台東区は、すべての区民が健康で文化的な生涯を送ることができるよう、区民と地域社会と区が一体となって健康施策を積極的に推進することを誓い、ここに健康都市とすることを宣言する。

(平成 19 年 12 月 1 日告示第 686 号)



平和都市宣言

台東区が平和都市であることを次のとおり、宣言する。

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

核兵器を廃絶し、歴史と文化を刻み人類を育むこのかけがえのない地球環境を守り、平和な社会を次の世代に引き継ぐことは、今の私たちに課せられた責務である。

私たちは、世界で唯一の核被爆国民として、戦争による罹災経験を自らがもつ都市の住民として、平和の尊さを全世界に強く訴え、人類こぞって幸せが享受できる社会の実現を希求する。

戦後 50 年の今年、改めて日本国憲法に掲げられた恒久平和に向けて努力することを誓い、ここに台東区が平和都市であることを宣言する。

(平成 7 年 11 月 2 日告示第 219 号)



暴力団追放都市宣言

台東区が暴力団追放都市であることを次のとおり宣言する。

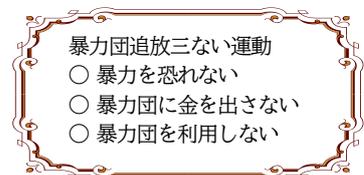
暴力や犯罪のない平穏で明るい地域社会の実現は、台東区民共通の願いである。

しかし、近年、暴力団は、政治、経済、社会のあらゆる分野に不当に介入し、その資金獲得活動を多様化、不透明化させるとともに、銃器等を使用した対立抗争事件を引き起こすなど、日常生活に不安と脅威を与えている。

このような暴力団の存在は、平穏で安全な生活を望む区民の願いを踏みにじるものであり、断じて許されるものではない。

台東区は、暴力団のいない平穏で明るい地域社会の実現に向けて努力することを誓い、ここに暴力団追放都市であることを宣言する。

(平成 17 年 12 月 15 日告示第 583 号)



花の心 たいとう宣言

台東区は古くから
花に親しむ心が受け継がれ
今なお 人々の暮らしの中で息づいています
花は 人の心を豊かにし
安らぎとゆとり 希望と勇気を
もたらします
全ての区民が 花を慈しむ心と
おもてなしの心を育み
心豊かで うるおいのあるまちを目指すことを願い
ここに 花の心 たいとう宣言をします。



(平成 28 年 4 月 1 日告示第 220 号)

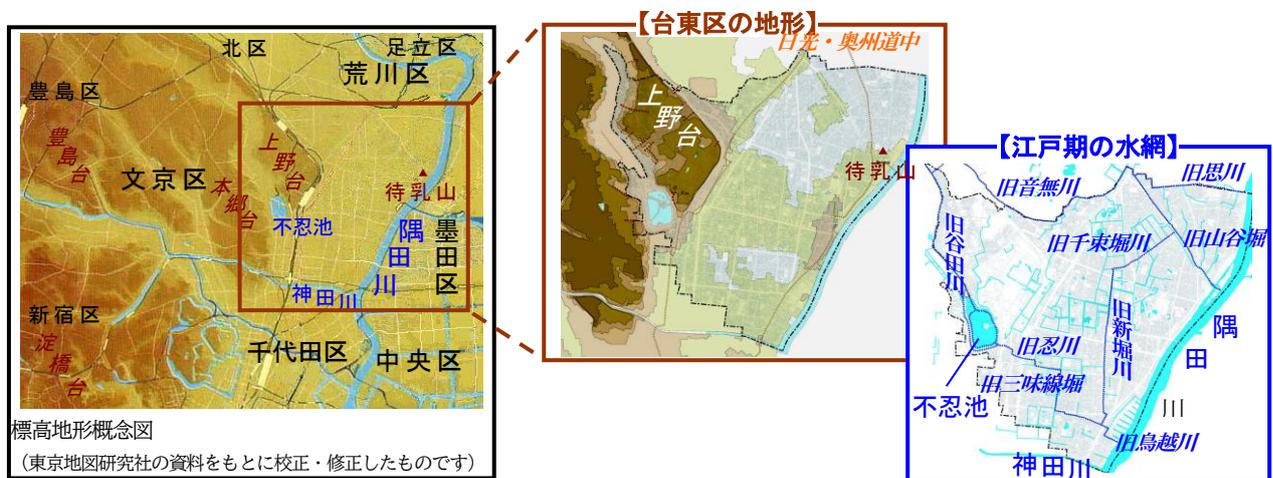
●台東区の位置と面積

台東区の位置は、東経 139° 46' 47" 北緯 35° 42' 46.5"（上野公園 7 番 20 号、国立科学博物館）で、東京 23 区部の中心よりやや東側に位置し、南は千代田区と神田川を隔てて中央区に接し、西は文京区、北は荒川区、東は隅田川を境にして姉妹区の墨田区に隣接しています。

面積は、10.11 km²と 23 区で最も狭く、区部の 1.6%、東京都全体の 0.46% を占めています。

●武蔵野台地と下町低地

台東区の地勢は、武蔵野台地の東端と隅田川を臨む沖積低地、いわゆる下町低地から成り立っています。武蔵野台地は、箱根山や富士山の火山灰が降り積もってきた洪積層で、上野台、本郷台、豊島台、淀橋台、目黒台、荏原台、久が原台と連なる高台の総称でもあります。また、利根川や入間川が合流するかつての隅田川が、土砂を運び続けたことにより、川岸では駒形付近が 4m、浅草寺付近が 3m、蔵前から千束三丁目までが 2m と、ゆるやかな微高地となっています。このため、内陸部へ海が入り込んでいた原始時代には、上野台は半島、下谷や浅草の一带は海、待乳山と鳥越付近には島が存在していたとされています。



台東区内には、谷田川や忍川といった自然河川のほか、江戸期に造作された水路が張り巡らされていました。しかし、関東大震災を契機とした都市化とともに、戦後の焦土処理や道路需要への対応のため、次第にこれらの埋立てや暗渠化が進み、現在では隅田川と神田川だけが、その姿を現しています。

●上野台（上野の山）

上野公園や谷中の寺院・墓地が立地する上野台は、旧谷田川（藍染川）の谷筋を挟んで西側の本郷台と相対し、標高は約 20m となっています。



JR 鶯谷駅から臨む上野台

● 不忍池

当地一帯は東京湾の入り江でありましたが、その後の海岸線の後退とともに取り残されて池になったと考えられています。周囲約 2 km という現形は、明治 17 年の競馬場建設に伴う埋め立てにより、ほぼ出来上がりました。



不忍池

● 隅田川

隅田川の原形は、関東山地を水源とする入間川で、江戸時代になって、江戸と川越との水運確保のため荒川の流路を入間川に付け替え、この時から今の隅田川は、「荒川」と呼ばれるようになりました。明治後期の大水害を機に荒川放水路が造られ、昭和 39 年の河川法改正により、この人工河川が「荒川」に、自然河川である荒川は「隅田川」となり、荒川の支流と位置づけられました。



白鬚橋 (大正 3 年 竣工)



言問橋 (昭和 3 年 竣工)



駒形橋 (昭和 2 年 竣工)



厩橋 (明治 7 年 竣工)



桜橋 (歩行者専用道
昭和 60 年 竣工)



吾妻橋 (昭和 2 年 竣工)



蔵前橋 (昭和 2 年 竣工)

● 待乳山

待乳山は、もともと本郷台から続く台地の一部でしたが、海の激しい浸食により削られ、現在の「山」の部分だけが残されました。標高は 9.8m で、下町低地では珍しい自然の高台です。



本龍院待乳山聖天

● 神田川

井の頭池を水源とする神田川は、江戸初期には江戸城の東（日比谷入江）に注いでいましたが、洪水から江戸城や蔵地を守るため本郷台を掘削するという大規模な土木工事が行われ、直接隅田川に流れるようになりました。

交通網

台東区の交通網は、鉄道網を始めとした公共交通機関の整備状況が高い水準にあります。道路事情としても、交通量の多い幹線道路が縦横に走り、23区の中で第2位の道路率となっています。

●江戸五街道

江戸幕府の開府とともに、日本橋を基点とする東海道、中山道、日光道中、奥州道中、甲州道中の五街道（日光道と奥州道は、宇都宮までは同一）とその最初の継立駅として、品川宿、板橋宿、千住宿、高井戸宿（後に内藤新宿）の四宿が整備されます。

台東区内では、千住宿に至る道筋として、日本橋から浅草橋を通る奥州道中と、神田橋門から上野山下までの御成道を経て三ノ輪を通る日光道中があり、現在の江戸通りや吉野通り、金杉通りや昭和通りが、その道中にあたるとされています。



●北の玄関口・上野駅

新橋－横浜間でわが国最初の鉄道の開業から 11年後の明治 16 年、生糸の生産地・高崎と輸出港・横浜を結ぶ「シルクロード」建設のため、既に赤羽－熊谷間を走っていた高崎線を上野まで延伸し、東京の「北の玄関口」上野駅がスタートします。この時期は鉄道が著しく発達し、上野駅の関連路線だけでも山手線・東北本線・常磐線などの原形が形成されつつありましたが、当時の上野－新橋間は、住宅密集地域であったため、遠回りとなる武蔵野台地を通る「シルクロード」の形成となりました。

山手線が、環状運転となるのは、上野駅開業から 40 年以上を経た大正 15 年のことで、最後につながったのが、わずか 2.3km の上野－神田間だったのです。



明治期の上野駅



大正期の上野山下
(山手線高架工事 上野～神田間)

●帝都復興事業

大正 12 年の関東大震災で東京は、壊滅的な被害を受けますが、その直後に内務大臣に就任した後藤新平は帝都復興院を設立、その総裁を兼務し、直ちに震災復興再開発事業に着手します。

当初の計画よりも大幅に予算を削減されたものの、この事業により、昭和通りをはじめとする 53 路線が整備されるほか、蔵前橋・厩橋・駒形橋・吾妻橋・言問橋を含む東京市内で、96 もの橋が新改架されました。

また、防火帯や避難所としての公園の重要性が認識され、隅田・浜町・錦糸の三大公園が造られるなど、都心や下町の街路の大規模な整備が行われ、現在の東京の原形ともなっています。さらに復興小公園が区内 15 か所に整備され、現在も区民の憩いや潤いの場のほか、地域の防災拠点として重要な役割を担っています。

●鉄道網の形成

昭和 2 年、わが国初の地下鉄（銀座線）が上野－浅草間 2.2km を結びました。本来は、新橋－浅草間を開通させる計画でしたが、関東大震災後の不況の中、資金調達が困難になったことから、当時の日本一の繁華街・浅草から上野までの収益性のある区間の建設となりました。

昭和 6 年、東武伊勢崎線が浅草雷門駅（現・浅草駅）まで、昭和 8 年には、京成電鉄が京成上野駅まで延伸するなど、昭和初期までには、現在の区内の鉄道網が形づくられます。

そして、戦後「上野に新幹線の駅をつくりましょう」を合言葉に、区民・区議会・区が一体となって新幹線誘致運動を展開し、昭和 60 年、北の玄関口・上野駅を起点に東北・上越新幹線が開業します。

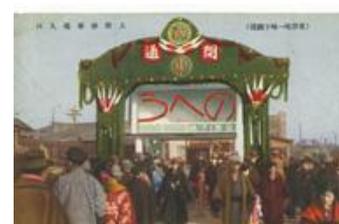
また平成 12 年に都営地下鉄大江戸線、平成 17 年にはつくばエクスプレスが開業し、区民や来街者に欠かすことのできない交通手段となっています。

鉄道交通機関がない地域の利便性確保のため、平成 13 年、区内初のコミュニティバス「北めぐりん」を開業しました。続いて平成 16 年に「南めぐりん」、平成 18 年に、「東西めぐりん」、平成 28 年に「ぐるーりめぐりん」が加わりました。

区民の大切な交通手段のみならず、観光客の気軽な散策の足として皆様に愛される「めぐりん」は、平成 30 年 10 月、乗客数が 2,000 万人に達しました。



昭和初期の昭和通り



地下鉄上野駅入口
(写真はがき：江戸ネット所蔵)



地下鉄浅草駅ホーム
(写真はがき：江戸ネット所蔵)



新幹線開業



ぐるーりめぐりん

人口

●世帯と人口

国勢調査に基づく台東区の人口は、昭和 15 年頃まで 460,000 人を超えていましたが、昭和 20 年に 200,000 人を下回り、195,000 人と急激に減少しました。一転して、戦後の定住人口は著しく増加しますが、昭和 35 年の 319,000 人をピークに、特に昭和 50 年代以降は、長期的な減少傾向が続きました。

住民基本台帳に基づく平成期の人口動向では、平成 5 年 3 月に 160,000 人台を割り、平成 11 年 3 月には、151,287 人と戦後最低の水準となりました。しかし、バブル経済の崩壊と地価下落による都心回帰の影響で増加に転じ、平成 27 年 4 月には 190,000 人台に達しています。

その後も順調に増加を続け、平成 31 年 3 月 27 日には、人口が約 42 年ぶりに 200,000 人を超えました。

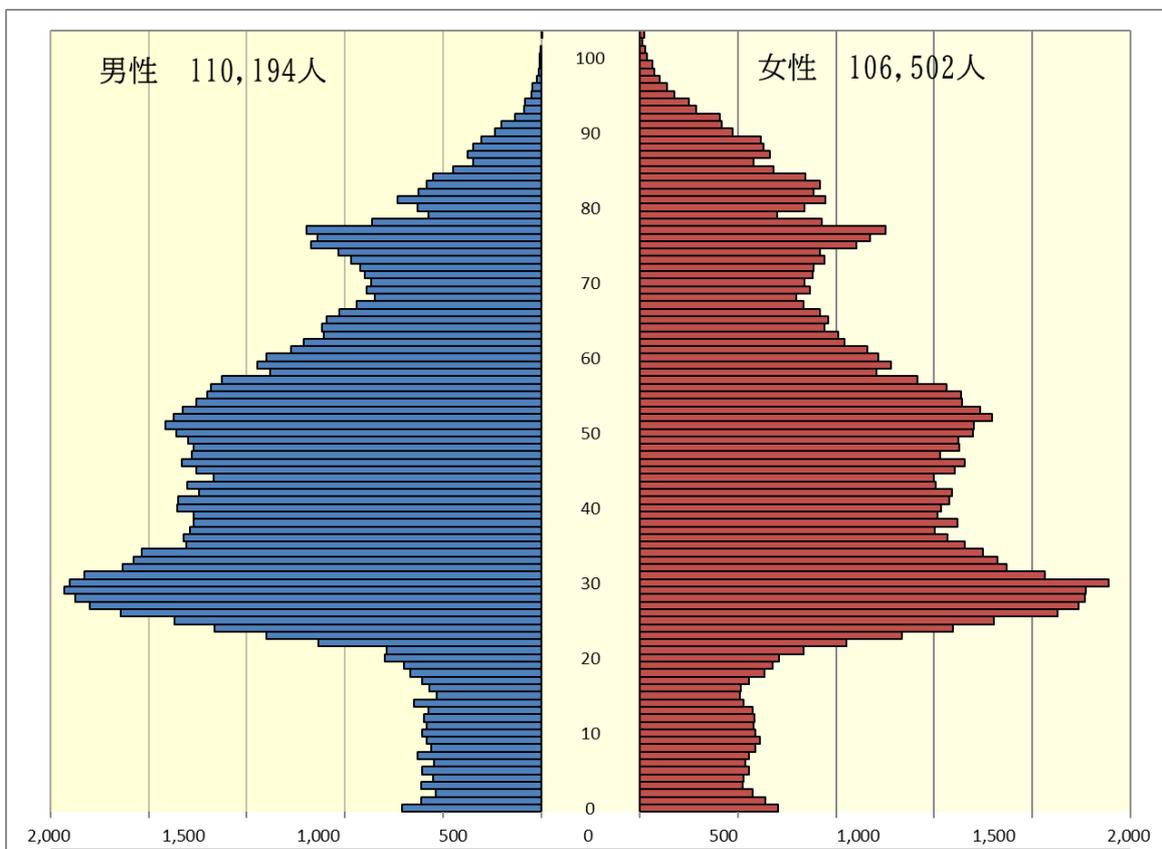
～令和 7 年 4 月 1 日現在～

世帯数：137,804 世帯

総人口：216,696 人

◇高齢者（65 歳以上）：44,416 人（比率 20.50%）

◇子ども（15 歳未満）：17,654 人（比率 8.15%）

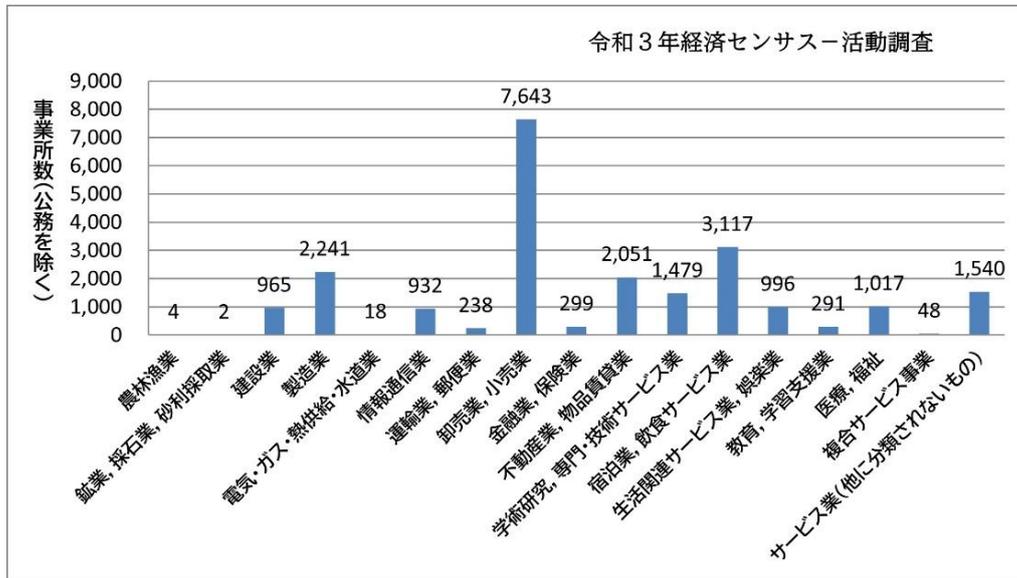


産業

●事業所数

台東区は、江戸時代より商工業の中心地の一つとして、人口と産業が高度に集積し、比較的小規模な手工業や製造業、及びそれらの生産の流通を担う問屋・卸売業の集積地として発展してきました。

現在でも、皮革産業、伝統工芸、ジュエリーなどの地場産業が集積しています。



●商店街

台東区には、上野のアメ横、浅草の仲見世、谷中銀座、御徒町のジュエリータウン、かっぱ橋道具街など特徴のある商店街が多くあり、その数は100以上になります。

それぞれの商店街が、その特徴を生かして集客の工夫を進めることで、地元だけではなく国内外からも多くの来街者が訪れています。



● 地域産業

～ものづくり支援～

台東区は、江戸時代より商工業の中心地のひとつとして、小規模な手工業や製造業、それらの生産や流通を担う問屋・卸売業が集積するまちとして発展してきました。

区内の多様な産業の魅力をPRし、中小企業の販路開拓を支援する展示商談会「台東区産業フェア」を開催するとともに、靴、かばん・バッグ、ベルト、帽子等の産地としてのPRや新販路開拓を図る「ファッションザッカフェア」事業を展開しています。

「ファッションザッカフェア」催事の様子



～伝統工芸～

台東区には、江戸・東京という都市のもと、育まれてきた伝統技能を今に伝える様々な職人がいます。

区では、鍛え抜かれた技と厳選された材料で作る伝統工芸品の普及・発展を図るため、作品の展示や実演、職人の顕彰を実施するなど、その振興に努めています。

伝統工芸職人展（東京国立博物館）



江戸たいとう伝統工芸館

伝統工芸品約 50 業種 250 点を常設展示し、館内のタッチパネルでは製作工程の動画や工芸品の詳細な解説が見られるなど、伝統工芸品の魅力を紹介しています。



～若手デザイナー・職人を支援します～

台東デザイナーズビレッジ

台東デザイナーズビレッジは、日本初のファッション関連ビジネスを対象とした創業支援施設です。

ファッション業界の未来を創り出す「デザイナー」を育て、地元関連業界をサポートするために設立されました。



浅草ものづくり工房

皮革関連産業をはじめとする、ものづくりを担う事業者の育成を目的とした施設です。

ここでは、入居者の自立支援を行うとともに、地域との連携・交流を図っています。



◇◆◇ファッションザッカ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



靴



鞆



革小物



帽子



ベルト



ザッカデザイン画コンペティション



優秀なデザイン画を区内周辺メーカーが製品化しました

○●○伝統工芸品○●○●○●○●○

(一部紹介)



江戸指物



江戸衣裳着人形



江戸木彫刻



江戸簾



江戸手描提灯



東京銀器



江戸木版画



江戸和竿



江戸べっ甲

区のおゆみ

● 区制の変遷

いわゆる明治維新の変革の中、明治元年、東征軍の支配下にあった江戸に「江戸府」が置かれ、同年のうち「東京府」と改称されました。明治 11 年の「郡区町村編成法」の制定による府内 15 区の設置を経て、明治 22 年には、「市制町村制」が施行、この 15 区を東京府から独立させ、「東京市」が誕生しました。



- ① 麹町区 ② 神田区
- ③ 日本橋区 ④ 京橋区
- ⑤ 芝区 ⑥ 麻布区 ⑦ 赤坂区
- ⑧ 四谷区 ⑨ 牛込区
- ⑩ 小石川区 ⑪ 本郷区
- ⑫ 下谷区 ⑬ 浅草区
- ⑭ 本所区 ⑮ 深川区

昭和 7 年、東京市 15 区は、隣接する荏原・豊多摩・北豊島・南足立・南葛飾の 5 郡 82 町村を合併して 20 区を新設、35 区制になりますが、昭和 18 年の東京都制の施行により、東京府および東京市は廃止され、35 区は東京都の行政区となりました。

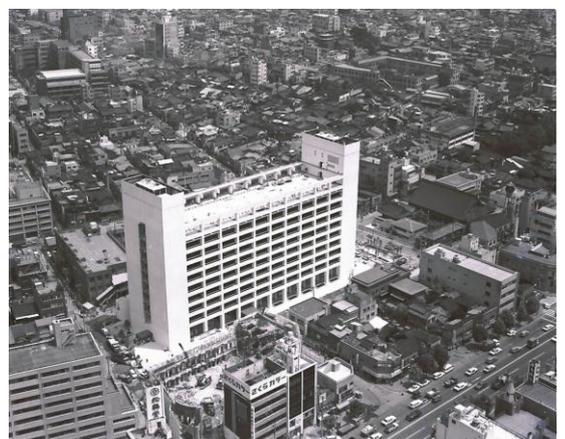
東京大空襲により、都心区から周辺区への大規模な人口移動が生じ、労働力や税収の面で各区の不均衡が顕著となりました。終戦を迎え、このような事態に対し占領軍総司令部（GHQ）は、東京 35 区を廃止し新区画の設定を東京都に命じ、これに基づき作成された再編案は、「各区の人口を 20 万人、面積は 10k m²以上」というもので、東京 22 区制となりました。

● 台東区の誕生

昭和 22 年 3 月 15 日、地方自治法が制定され、新たな東京 22 区制（8 月から 23 区制）

が発足しました。これにより下谷区と浅草区が合併し、「台東区」は誕生しました。

平成 29 年 3 月には、台東区発足 70 周年を迎えました。



本庁舎落成（昭和 48 年 8 月）



旧下谷区庁舎（現・本庁舎所在地）



旧浅草区庁舎（現・浅草公会堂所在地）

● 区長公選制

戦後の地方自治法では当初、特別区の区長も公選とされていましたが、昭和 27 年の同法の改正により区長公選制が廃止され、区長は区議会が都知事の同意を得て選任（選任制）されることとなりました。

しかし、自治権の拡充と独立性を求める区の動きや住民運動の活発化などから、昭和 50 年から区長公選制が復活します。

● 基礎的自治体へ

特別区は、制度創設から長らく東京都の内部的団体と位置付けられていました。平成 12 年の地方自治法の改正により、特別区は「基礎的な地方公共団体」と規定され、福祉事務所（昭和 40 年）や保健所（昭和 50 年）などに続いて、清掃事業をはじめとする 30 余の事業が、都から区に移管されました。

● さらなる分権に向けて

平成 18 年に都区間で「都区のあり方検討委員会」が設置され、都区の事務配分及び区域の再編についての「基本的方向」の取りまとめに向けて協議を重ねてきましたが、現在は進展がない状況です。都区制度は未だ変革の途上であり、これからの区政は、自らの判断と責任の下、少子高齢社会における活力ある地域づくりを進めていくことが、一層求められております。

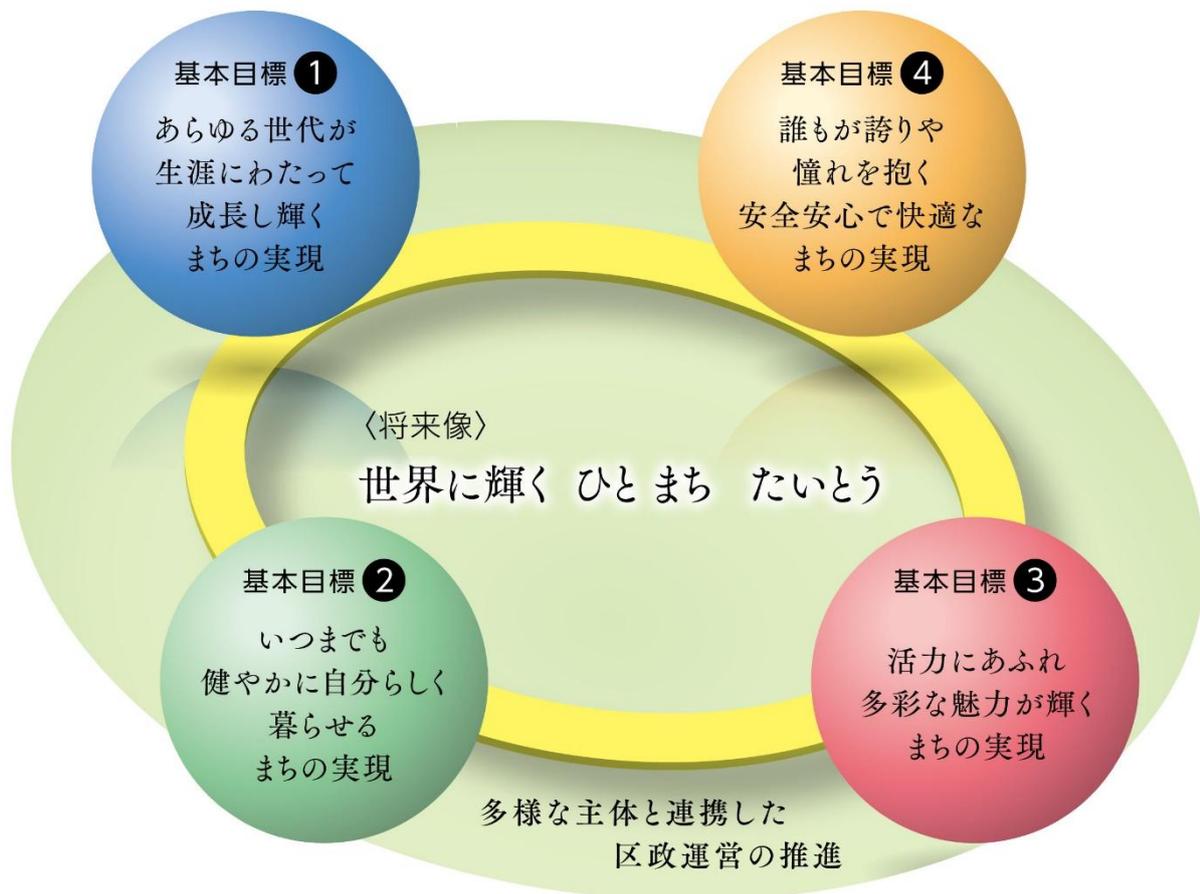


平成 29 年 3 月、台東区発足 70 周年を迎えました。発足してからの歩みを振り返るとともに、区の輝かしい未来を願い、同年 10 月、浅草公会堂にて台東区発足 70 周年記念式典を挙行了しました。

●基本構想

基本構想とは、概ね 20 年後を展望して、台東区の将来像を描き、それを区民や地域で活動する団体など一体となって実現するための、区政運営の最高指針となるものです。

基本構想は、概ね 20 年後を想定した区の目指す姿である「将来像」と将来像を実現するための目標である「基本目標」、区政運営の基盤となる考え方を示した「多様な主体と連携した区政運営の推進」で構成しています。



● 区の財政

令和7年度の当初予算総額は、1,812億2,609万円で、6年度当初予算に比べて91億9,359万円の増（5.3%）となりました。このうち一般会計予算は1,306億円で、6年度に比べて74億円の増（6.0%）となっています。



10,000円札に例えると・・・

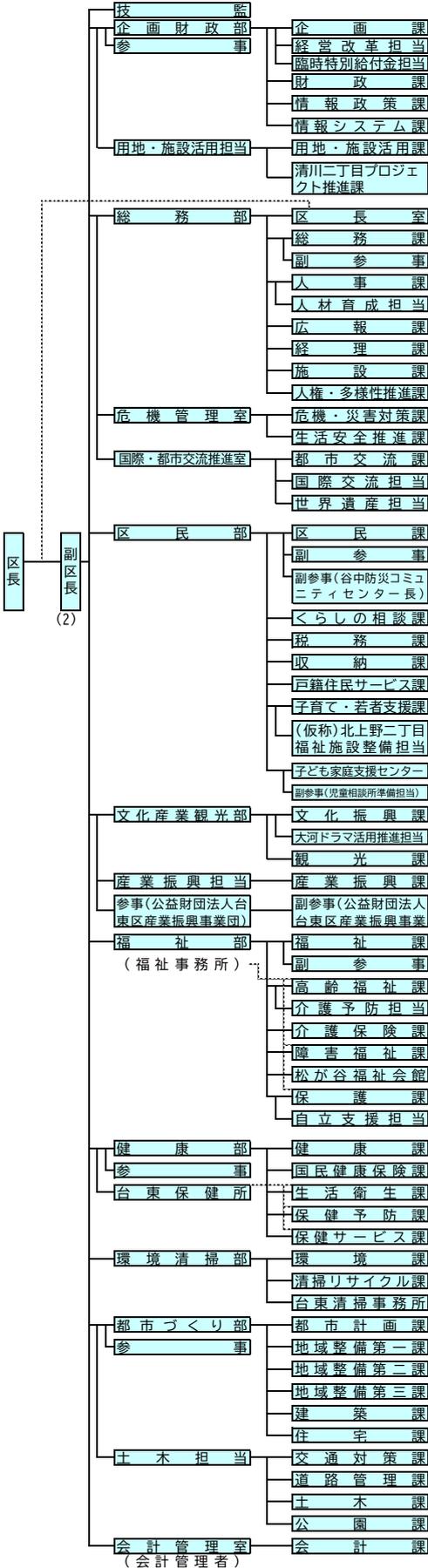


●令和7年度の主な事業

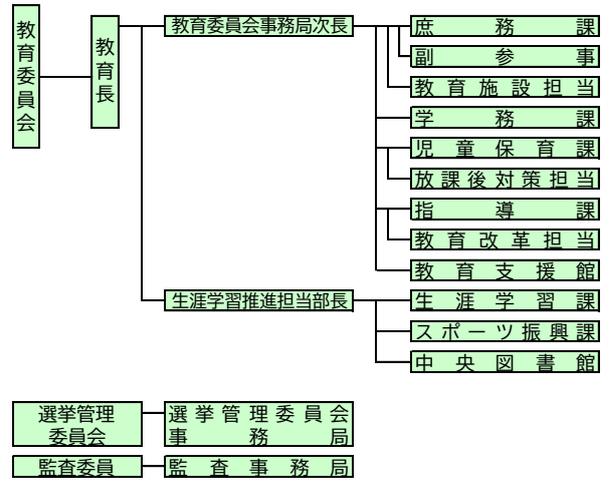
- 補助教材費等支援 ●特別支援教育振興／小学校特別支援学級運営
- チャレンジクラスの整備／校内別室指導支援員の配置
- こどもクラブ整備助成 ●放課後子供教室運営 ●産前産後の支援の充実
- 初心者スポーツ教室／リバーサイドスポーツセンター維持修繕
- ICTを活用した健康づくり活動支援
- 認知症高齢者支援の推進 ●高齢者緊急一時宿泊
- かがやき長寿ひろば／地域による介護予防活動への支援 ●がん検診
- はばたき21相談室
- 千束保健福祉センター整備／千束健康増進センター改修／千束自転車保管所改修／防災用千束職員住宅改修／ほおずきの家大規模改修
- 災害対策本部機能の充実／水・食料・生活必需品の備蓄／井戸・備蓄倉庫等の維持管理／帰宅困難者対策の推進
- 総合自転車対策
- 上野地区まちづくり推進 ●鶯谷駅周辺まちづくり検討
- プロジェクト普及啓発／地域緑化推進
- 国内都市交流推進
- 我が社の環境経営推進
- 職員のICTリテラシー向上／スマート窓口の整備
- まちづくりDXの推進
- おくやみコーナー運営
- いっとき保育／要保護児童支援ネットワーク
- 大河ドラマ「べらぼう」活用推進（まちの賑わい創出の取組み）
- 大河ドラマ「べらぼう」活用推進（区内事業者支援による地域活性化）
- 生誕100年朝倉響子展
- 観光統計・マーケティング調査の実施／海外プロモーション推進
- 上野の山文化ゾーンフェスティバル／江戸まちたいとう芸楽祭
- 経営相談 ●企業・人材育成支援

● 組織図 (令和7年度)

◎ 区長部局



◎ 行政委員会



◎ 区議会



見どころ

芸術と文化の杜・上野

天正 18 年、徳川家康の江戸入府後、家康は浅草寺を祈願所に、芝の増上寺を菩提寺に定め、三代将軍・家光になって、江戸城鎮護のための祈願所の創建が進められます。これを命じられた天海僧正は、京都御所と琵琶湖、鬼門を守る比叡山の位置関係を江戸城と不忍池、上野の山に見立て、東の比叡山として「東叡山寛永寺」を創建します。後には趣意が変わって徳川家の菩提寺になりますが、山の下にも町が造られ、門前町として賑わうようになりました。

上野の山に広がった寛永寺の伽藍は、幕末の戊辰戦争により多くが焼失してしまいます。明治政府は、焼け跡となったこの地に病院建設を計画していましたが、オランダ人軍医・ボードワンの進言により計画が変更、上野の山が日本最初の都市公園に指定されます。明治 10 年、第 1 回内国勸業博覧会が開催、以後第 3 回まで開かれ、会場跡には、美術館、博物館、動物園、美術学校や音楽学校などが次々と設立し、芸術・文化の拠点の様相を呈すようになります。



東叡山寛永寺



「上野の山文化ゾーン」全景



上野公園噴水広場



西郷隆盛像

また、上野公園に隣接する谷中地域は、寛永寺の創建に伴う寺院の建立や江戸幕府の政策により、神田付近から多くの寺院が移転、寺町を形成し発展してきました。震災や戦災の影響が比較的少なかったため、昔ながらの街並みや建造物が残され、寺町としての風情を今に伝えています。



谷中霊園



谷中の街並み



あかじ坂



築地堀

これら“寛永寺・上野公園、谷中の街並み”地域は、次世代に継承すべき美しい歴史的風土を形成している地域として、「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選ばれました。

芸能と庶民文化の一大中心地・浅草

7世紀に建てられた浅草寺。推古天皇36年、地元の漁師が宮戸川（隅田川下流）で聖観音を引き上げたことが縁起とされ、これが今に伝わる浅草寺の本尊です。

古くより、多くの参拝客で賑わっていた浅草寺は、江戸期に入ると境内に見世物小屋が軒を並べ、また、明暦の大火以後には、浅草寺の裏手に遊里が生まれ、猿若三座の名で知られる芝居町もつくられるなど、浅草は江戸庶民の娯楽を集めた盛り場として賑わうようになりました。

明治期に入り、境内が公園地として整備され「浅草六区」が誕生し、奥山芝居小屋、見世物小屋は公園六区興行街へと引き継がれ、映画街の代名詞として多くの人々に親しまれるようになります。大正期に至っては、映画などの興行場と浅草十二階と呼ばれた凌雲閣が人気を博し、「浅草オペラ」が、広く大衆に愛されることとなりました。



明治期の浅草公園
(江戸ネット所蔵)



オペラ館
(浅草文庫提供)



帝国館
(浅草文庫提供)



遊楽館
(浅草文庫提供)

大正12年の関東大震災により凌雲閣は崩壊、浅草地区では、全域に近い92.8%が焼失するなど、壊滅的な被害を受けました。しかし翌年には、興業街や映画街の各館が再建され、活力に満ちた街としてめざましい復興を遂げました。



震災復興後の仲見世
(「帝都復興記念帖」所載)



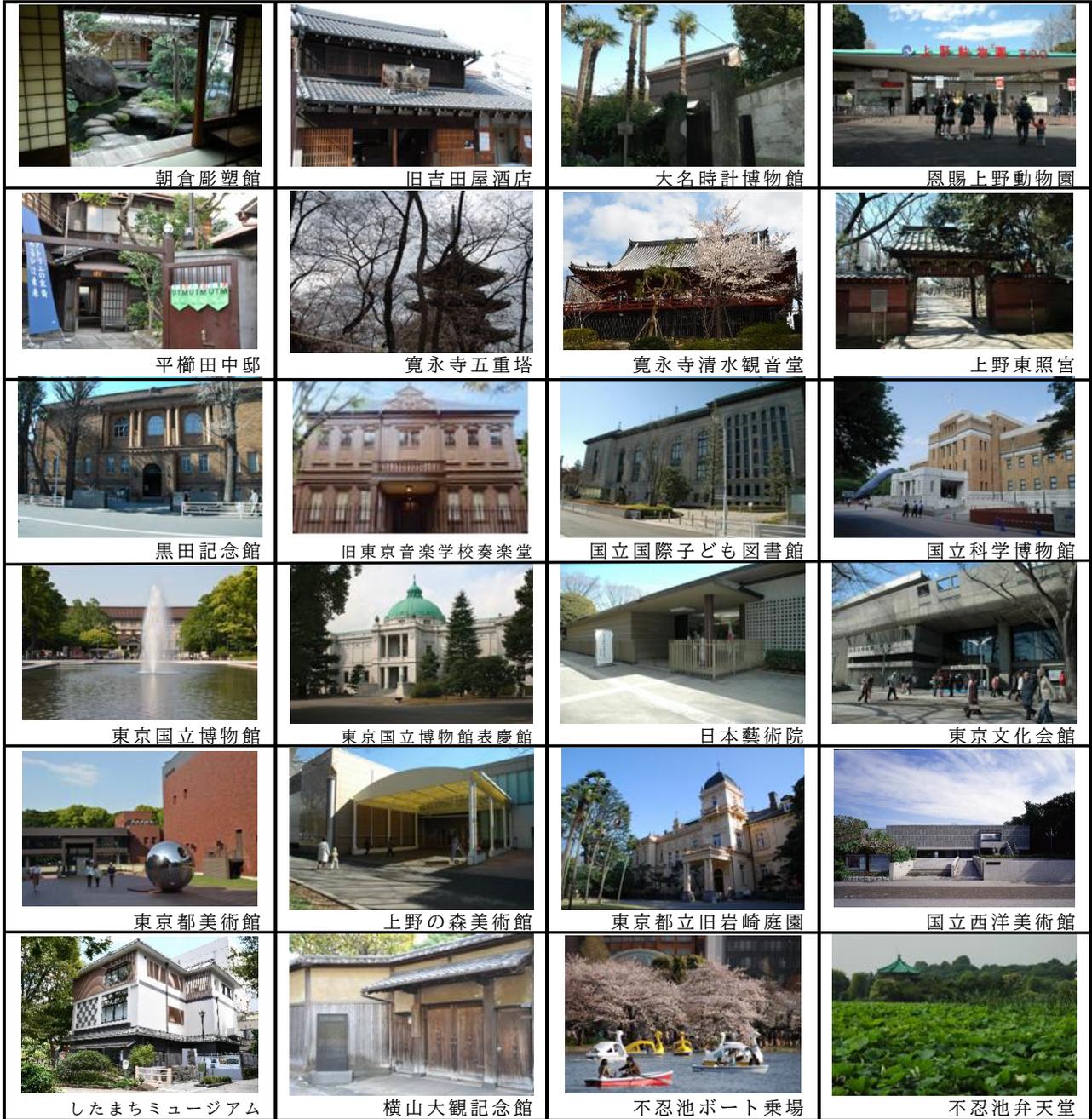
昭和期の浅草六区



終戦後の仲見世
(江戸ネット所蔵)

江戸随一の盛り場であった浅草は、江戸以来の演劇娯楽のメッカとして発展し、芸能と庶民文化の一大中心地として栄え、固有の歴史と文化に育まれた日本を代表する国際的な観光拠点となっています。

文化施設・観光スポット



東京初の世界文化遺産 国立西洋美術館



国立西洋美術館は、20世紀の建築や都市計画に大きな影響を与えた建築家ル・コルビュジエの設計した東アジアで唯一の作品です。平成28年7月、国立西洋美術館を構成資産に含む「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」が世界文化遺産に登録され、国立西洋美術館は、東京で初めての世界文化遺産となりました。



書道博物館



子規庵



ねぎし三平堂



台東アートギャラリー



一葉記念館



皮革産業資料館



池波正太郎記念文庫



太鼓館



江戸たいとう伝統工芸館



花やしき



浅草演芸ホール



日本文具資料館



浅草寺雷門



浅草寺五重塔



浅草公会堂・スターの広場



袋物参考館 (要予約)



世界のカバン博物館



六区ブロードウェイ



浅草文化観光センター



隅田川水上バス

観光イベント

台東区は、文化施設をはじめ、四季の風物やお祭り、地域のイベントなど、多彩な見どころが集積し、観光や買い物などで令和6年には年間4,121万人を超える方々が訪れました。※状況により、開催時期が変更または中止等となる場合があります。

～4月～

●投扇興のつどい

／浅草文化観光センター



©浅草観光連盟 365ASAKUSA

●仏生会・花まつり

／浅草寺 ほか

●浅草観音うら一葉桜まつり

／富士公園



●春のぼたん祭

／上野東照宮ぼたん苑

●白鷺の舞

／浅草寺

●浅草流鏝馬

／隅田公園



●早慶レガッタ

／新大橋～桜橋間



●こんこん靴市

／玉姫稲荷神社



●泣き相撲

／浅草寺「暫」銅像前



©浅草観光連盟 365ASAKUSA

～5月～

●宝の舞

／浅草寺



●下谷神社大祭

／下谷神社



●浅草橋紅白マロニエまつり

／ヒューリック浅草橋ビル周辺



●小野照崎神社大祭

／小野照崎神社



●三社祭

／浅草神社



● さつきフェスティバル

／上野公園噴水広場



● 五條天神社例大祭

／五條天神社



～ 6月～

● 鳥越祭

／鳥越神社



● いきいきあじさい祭

／長國寺

● お富士さんの植木市

／浅草富士浅間神社周辺



● 茅の輪くぐり

／鳥越神社、小野照崎神社 ほか



● お山開き

／小野照崎神社



～ 7月～

● 下町七夕まつり

／かっぱ橋本通り



● 入谷朝顔まつり

／入谷鬼子母神およびその周辺



● 四万六千日・ほおずき市

／浅草寺



● うえの夏まつり

／不忍池周辺



● 隅田川花火大会

／隅田川



● 台東新能

／浅草寺



～ 8月～

● 谷中圓朝まつり

／全生庵



● 隅田川とうろう流し

／隅田川テラス（吾妻橋付近）



● 浅草サンバカーニバル

／馬道通り～雷門通り



©浅草サンバカーニバル実行委員会

～ 9 月 ～

●開山会
／待乳山聖天

●人形供養
／清水観音堂



～ 10 月 ～

●へちま供養
／浄名院



●谷中まつり
／谷中地区



●谷中菊まつり
／大圓寺



●菊供養会・金龍の舞
／浅草寺



～ 11 月 ～

●白鷺の舞
／浅草寺



●酉の市
／鷲神社・長國寺



●火渡りの神事
／秋葉神社



●靴のめぐみ祭り市
／玉姫稻荷神社



●一葉祭
／一葉記念館



～ 12 月 ～

●歳の市（羽子板市）
／浅草寺



●除夜の鐘
／寛永寺・浅草寺 ほか



～ 1 月 ～

● 初詣

／浅草寺 ほか



● 七福神詣

／谷中、下谷、浅草名所七福神

● 冬ぼたん

／上野東照宮ぼたん苑



● 大根まつり

／待乳山聖天



● とんど焼き

／鳥越神社



● まないた開き

／坂東報恩寺



● うそかえの神事

／五條天神社

～ 2 月 ～

● 節分

／浅草寺 ほか



● 福聚の舞

／浅草寺



● うけらの神事

／五條天神社



● 針供養

／浅草寺 淡島堂



～ 3 月 ～

● 浅草観音示現会

／浅草寺

● 金龍の舞

／浅草寺

● うえの桜まつり

／上野公園



● 隅田公園桜まつり

／隅田公園



● 桜橋花まつり

／隅田川桜橋周辺

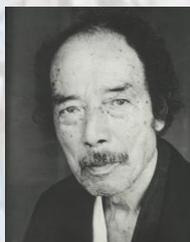


台東区名誉区民

昭和32年4月、台東区発足10周年を機に「東京都台東区名誉区民条例」を制定しました。

公共の福祉の増進、学術・技芸の進展に多くの功績を残された方々に対し、名誉区民の称号を贈り、長くその榮譽を称えます。

よこやま たいかん
横山 大観



昭和32年5月6日推戴

本名 秀磨。明治元年9月18日生。近代日本画壇の巨匠。明治30年、東京美術学校（現東京藝術大学）助教授となったが、1年で職を辞し、師岡倉天心が創設した日本美術院に入り、菱田春草、下村観山とともに日本画の革新運動を起こした。昭和12年、第1回文化勲章受章。日本美術院会員。代表作は「無我」「瀟湘八景」「生々流転」など。昭和33年2月26日逝去。

ひらぐし でんちゆう
平櫛 田中



昭和36年11月1日推戴

本名 倬太郎。明治5年6月30日生。わが国彫刻界の最高峰。帝室技芸員、芸術院会員、東京藝術大学教授等を歴任。昭和29年文化功労者、昭和37年文化勲章受章。代表作は「五浦釣人」「鏡獅子」「転生」など。昭和54年12月30日逝去。

おおたに よねたろう
大谷 米太郎



昭和36年11月1日推戴

明治14年7月24日生。わが国経済界の重鎮。富山県から単身上京、大谷重工業を興し、取締役社長に就任。後に大谷興行、大谷鋳業、星製薬等事業を拡張し、大谷グループの統帥として活躍。また、地元にあっては、浅草観光連盟会長等を歴任、台東区の興隆に貢献された。昭和43年5月19日逝去。

あさくら ふみお
朝倉 文夫



昭和36年11月1日推戴

明治16年3月1日生。わが国彫塑界の最高峰。帝室技芸員、芸術院会員、東京美術学校（現東京藝術大学）教授等を歴任。昭和23年文化勲章受章、昭和26年文化功労者。代表作は「墓守」「水の猛者」「和気清麻呂像」など。昭和39年4月18日逝去。

かみじょう みつぎ
上條 貢



昭和50年6月28日推戴

明治27年11月10日生。大正10年、長野県から上京、浅草区金竜小学校に奉職。後に弁護士を開業、以降政治を志す。昭和9年浅草区会議員当選、東京市議員、東京都議会議員等を歴任。昭和32年東京都議会議長、全国都道府県議会議長に就任。昭和38年台東区長に就任後昭和50年4月まで3期12年にわたり、台東区の発展に貢献された。昭和52年2月6日逝去。

すぎやま やすし
杉山 寧



平成5年11月1日推戴

明治42年10月20日生。わが国日本画壇の代表的画家。東京美術学校（現東京藝術大学）在学中から帝展に入選するなど、昭和初期の日本画壇に若くして確固たる地位を築く。昭和32年日本芸術院賞受賞、昭和49年文化勲章受章、文化功労者。

代表作は「海女」「孔雀」「荃（せん）」など。

平成5年10月20日逝去。

ひらやま いくお
平山 郁夫



平成7年9月28日推戴

昭和5年6月15日生。現代日本画壇の第一人者。日本美術院評議員、東京藝術大学教授、日本美術院理事、東京藝術大学美術学部長を歴任し、平成元年、東京藝術大学第6代学長に就任。平成3年フランス政府よりコマンドール勲章授与。平成5年文化功労者、平成10年文化勲章受章。平成13年東京藝術大学学長に再選。平成17年12月東京藝術大学学長退任。

代表作は「仏教伝来」「入涅槃幻想」「仏説長阿含経巻五」など。

平成21年12月2日逝去。

うちやま えいいち
内山 榮一



平成19年10月21日推戴

明治44年11月25日生。昭和12年台東区（当時浅草区）で税理士を開業。昭和26年台東区議会議員に当選。副議長、議長等を歴任。昭和42年東京都議会議員に当選。公害首都整備委員会委員長等を歴任。昭和50年公選復活後初の区長として台東区長に就任後平成3年4月まで4期16年にわたり、台東区の発展に貢献された。

平成24年4月10日逝去。

いけなみ しょうたろう
池波 正太郎



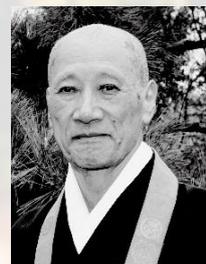
令和5年12月15日推戴

大正12年1月25日生。わが国時代小説の第一人者。上野・浅草で幼少期・青年期を過ごし、昭和21年東京都職員となり台東区役所ほかに勤務。江戸の下町を舞台にした数々の傑作を発表し続け、絶大な人気を博す。昭和35年「錯乱」で直木賞受賞、昭和52年吉川英治文学賞受賞、昭和61年紫綬褒章受章。自筆の原稿や絵画、生前の愛用品等を区に寄付。平成13年区が池波正太郎記念文庫を開設。

代表作は「鬼平犯科帳」「剣客商売」「仕掛人・藤枝梅安」など。

平成2年5月3日逝去。

うらい まさあき
浦井 正明

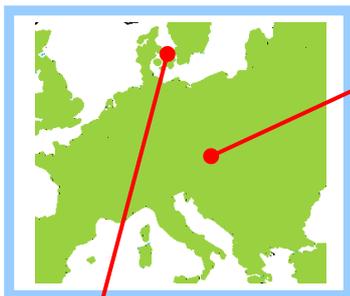


令和7年6月2日推戴

昭和12年9月7日生。東叡山輪王寺門跡門主 寛永寺貫首。教育及び文化の分野に高い識見と情熱を持ち、永年にわたり、区政の伸展に多大に貢献。台東区教育委員会委員を14年、台東区文化財専門委員、文化財保護審議会委員を37年にわたり務める。本区に色濃く残る江戸の文化資源「江戸たいとう」の魅力発信に大きく寄与。平成29年台東区文化功労栄誉章受章。

令和7年3月6日逝去。

台東区の姉妹都市・友好都市・連携都市



姉妹都市

オーストリアウィーン市第1区イネレシュタット



【平成元年4月5日提携】
歴史と文化の街という共通点があり、区内小学校音楽部の訪問をきっかけに、文化や人的交流の発展を目指し提携しています。

姉妹都市

デンマークグラスサックセ市 【平成12年4月17日提携】



福祉ボランティア研修や中学生教育使節団の相互訪問をしていたことから、福祉・教育等で互いの発展を目指し提携しています。

連携都市

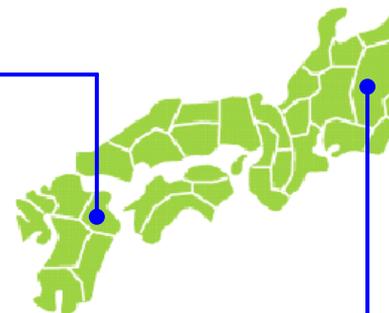
台東区は、北海道鹿追町、茨城県筑西市、滋賀県長浜市の3都市と「特定分野における連携に関する協定」を締結し、文化、産業、観光、環境分野で連携しています。
【連携期間：平成29年度～令和10年度】

友好都市

大分県豊後大野市
(旧朝地町)



【昭和62年12月10日提携】
台東区名誉区民である故朝倉文夫の芸術を介して育んできた友情と信頼を一層深め、豊かな地域社会の発展と住民生活向上のため、たゆまぬ努力を誓います。



友好都市 長野県諏訪市



【昭和59年7月10日提携】
四半世紀にわたる「霧ヶ峰学園」の運営、そして新たな少年自然の家「霧ヶ峰学園」建設を通じて育んできた友情の絆を一層深いものとし、両都市相互の発展をはかります。

姉妹都市

オーストラリアノーザンビーチ市 (旧マンリー市)



【昭和57年8月14日提携】
昭和55(1980)年のマンリー美術館での日本美術展の開催、昭和57(1982)年の日豪国際シンポジウムをきっかけに、住民相互の異文化交流の発展を目指し提携しています。

友好都市 山形県村山市



【平成20年10月25日提携】
浅草寺への大わらじ奉納を機縁として、育んできた友情と信頼を礎に、互いに活力に満ちた豊かな地域社会の発展と住民生活向上のため、惜しみない努力をおこないます。

姉妹都市 宮城県大崎市
(旧古川市)



【昭和59年1月14日提携】
東北新幹線の開通を機縁として生まれた信頼と友情の絆をゆるぎないものとし、一層の相互交流を行うことにより互いの繁栄と発展を目指します。

友好都市 福島県会津美里町
(旧会津高田町)



【昭和61年11月21日提携】
学童疎開を機縁として育んできた友情と信頼を基に、一層の交流を進め、住みよい地域社会と豊かな住民生活のため惜しみない努力を行います。

友好都市 福島県南会津町 (旧田島町)



【昭和61年10月8日提携】
昭和61年の会津鬼怒川線の開通により浅草と直結しました。これを契機として友情と連帯の絆を結び、もって相互の繁栄と住民生活の一層の向上を目指します。

友好都市 栃木県日光市
(旧藤原町)

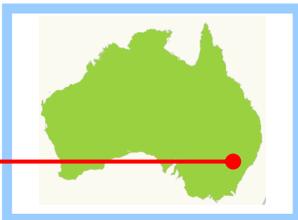
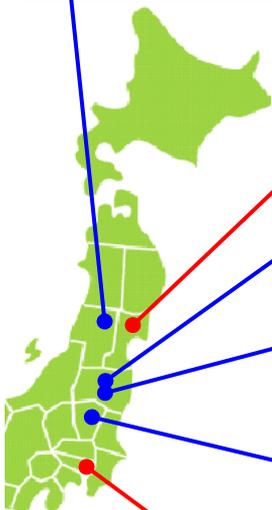


【昭和60年5月10日提携】
東武鉄道によって直結という関係を背景として培ってきた住民同士の交流を一層促進し、友情の絆を深め、両都市の進展に寄与することを目指します。

姉妹区 東京都墨田区



【昭和52年4月10日提携】
隅田川をはさんで隣接し、また、同じ東京の下町として密接な繋がりを持つ両区が、共に協調し交流と相互協力を深めることにより、区民生活の向上をはかります。



台東区のあらし

令和7年9月発行
台東区総務部広報課

〒110-8615 台東区東上野4-5-6
03(5246)1111(代表)
<https://www.city.taito.lg.jp/>